

# SSS原稿作成時の注意点 MS-Word の場合

wordtemp フォルダ内にある,  
sig-ms2023.dot からの変更点を示します.

情報処理学会研究報告  
IP SJ SIG Technical Report

ヘッダーを消す  
(挿入→ヘッダー)

## MS-Word による研究報告作成のガイド (第 3.5 版)

寺田真敏<sup>1</sup> 西田豊明<sup>2</sup> 植村俊亮<sup>3</sup>

a) 情報処理学会では、論文誌を迅速かつ低コストで出版するために LaTeX での投稿を推奨している。

b) Microsoft, Microsoft Word は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

c) えんじ色の色づけは、研究報告用原稿において削除対象箇所であることを示し、【 】に記載された内容は、削除対象に対する推奨操作を示す。

©2026 Information Processing Society of Japan

1

フッターを消す  
(挿入→フッター)

ページ数も消す  
(挿入→フッター)

**概要:** このパンフレットは、情報処理学会研究報告の原稿を、MS-Word を用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、研究報告作成のための MS-Word テンプレートファイル (.dot) について解説している。また、このパンフレット自体も研究報告と同じ方法で作成されているので、必要に応じて雛形として参照されたい。

**キーワード:** 情報処理学会論文誌ジャーナル, MS-Word, スタイルファイル, べからず集

## How to Typeset Your SIG Technical Reports in MS-Word (Version 3.5)

MASATO TERADA<sup>†1</sup> TOSHIAKI NISHIDA<sup>†2</sup>  
SHUNSUKE UEMURA<sup>†3</sup>

和文キーワードは  
必須なので  
残す

英文著者名  
も残す

英語 Abstract, 英語 Keywords の記載は  
オプションです

# MS-Word による研究報告作成のガイド (第 3.5 版)

寺田真敏<sup>1</sup> 西田豊明<sup>2</sup> 植村俊亮<sup>3</sup>

**概要:** このパンフレットは、情報処理学会研究報告の原稿を、MS-Word を用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、研究報告作成のための MS-Word テンプレートファイル (.dot) について解説している。また、このパンフレット自体も研究報告と同じ方法で作成されているので、必要に応じて雛形として参照されたい。

**キーワード:** 情報処理学会論文誌ジャーナル, MS-Word, スタイルファイル, べからず集

## How to Typeset Your SIG Technical Reports in MS-Word (Version 3.5)

MASATO TERADA<sup>†1</sup> TOSHIAKI NISHIDA<sup>†2</sup>  
SHUNSUKE UEMURA<sup>†3</sup>

英語Abstract, 英語Keywordsの記載は  
オプションです

### 1. はじめに

情報処理学会では、本会創立 50 周年 (2010 年 4 月) に向けた刊行物オンライン化に伴い、2008 年度の論文誌に続き、2009 年度は研究会活動のオンライン化を促進している [a]。本稿では、日頃から MS-Word で文書を作成している著者向けに専用のテンプレートファイル (.dot) とテンプレートファイルを用いて作成した情報処理学会研究報告用原稿例”MS-Word による論文作成のガイド (.pdf)” とを提供する [b]。

MS-Word による投稿にあたっては、多数の読者に親しまれてきた論文誌の体裁を継承し、かつ査読者が読みやすい論文の体裁を維持することが必要であり、著者の方々の協力が不可欠である。一方、著者にとってのメリットとしては、情報処理学会研究報告用原稿と論文誌用原稿の体裁の差が少なくなったので、論文誌投稿の手間が大幅に削減されることがあげられる。また専用のテンプレートファイル (.dot) を提供しているので、日頃から MS-Word で文書を作成している多くの著者には無理なく受け入れられるものと期待している [c]。

### 2. 投稿まで

研究報告用原稿の作成から投稿までの流れは、次の通りである。

#### (1) テンプレートファイルの取得

MS-Word による論文作成キットについては、下記の URL から取得して欲しい。なお、インターネットにアクセスできない方は、学会事務局 (sig@ipsj.or.jp) に相談していただきたい。

MS-Word テンプレートファイル

<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/wordtemp.zip>

このキットには下記のファイルが含まれている。

- テンプレートファイル: sig-ms2023.dot
- テンプレートファイルのメッセージダイジェスト値: README.txt
- 作成した研究報告用原稿例: sig-ms2023.pdf

また、提供するテンプレートファイルは、図 1 に示す通り、2 つのセクションから構成している。

- (a) 表題, 著者名, 概要
- (b) 本文, 謝辞, 参考文献, 付録

#### (2) 原稿の作成

電子投稿の場合は、このガイドにしたがって MS-Word ファイルから PDF ファイル (研究報告用原稿) を 1 つ作成す

<sup>1</sup> (株)日立製作所  
Hitachi Ltd.

<sup>2</sup> 京都大学  
Kyoto University

<sup>3</sup> 奈良先端大学院大学  
Nara Institute of Science and Technology

a) 情報処理学会では、論文誌を迅速かつ低コストで出版するために LaTeX での投稿を推奨している。

b) Microsoft, Microsoft Word は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

c) えんじ色の色づけは、研究報告用原稿において削除対象箇所であることを示し、【 】に記載された内容は、削除対象に対する推奨操作を示す。

# ヘッダーを 消してないので NG

## MS-Word による研究報告作成のガイド (第 3.5 版)

寺田真敏<sup>1</sup> 西田豊明<sup>2</sup> 植村俊亮<sup>3</sup>

**概要:** このパンフレットは、情報処理学会研究報告の原稿を、MS-Word を用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、研究報告作成のための MS-Word テンプレートファイル (.dot) について解説している。また、このパンフレット自体も研究報告と同じ方法で作成されているので、必要に応じて雛形として参照されたい。

**キーワード:** 情報処理学会論文誌ジャーナル, MS-Word, スタイルファイル, べからず集

### How to Typeset Your SIG Technical Reports in MS-Word (Version 3.5)

MASATO TERADA<sup>†1</sup> TOSHIAKI NISHIDA<sup>†2</sup>  
SHUNSUKE UEMURA<sup>†3</sup>

**Abstract:** This manuscript is a guide to produce a final camera-ready manuscript of a PDF to be submitted to IPSJ SIG Technical Report using MS-Word template file (.dot). Since the manuscript itself is produced with the MS-Word template file, it will help you to refer it. [\*\*]

**Keywords:** IPSJ Journal, MS-Word, Style files, "Dos and Don'ts" list [\*\*]

[\*\*] 英語アブストラクト, 英語キーワードの記載はオプションである。和文キーワードは SSS では必須である。

#### 1. はじめに

情報処理学会では、本会創立 50 周年 (2010 年 4 月) に向けた刊行物オンライン化に伴い、2008 年度の論文誌に続き、2009 年度は研究会活動のオンライン化を促進している [a]。本稿では、日頃から MS-Word で文書を作成している著者向けに専用のテンプレートファイル (.dot) とテンプレートファイルを用いて作成した情報処理学会研究報告用原稿例 "MS-Word による論文作成のガイド (.pdf)" とを提供する [b]。

MS-Word による投稿にあたっては、多数の読者に親しまれてきた論文誌の体裁を継承し、かつ査読者が読み易い論文の体裁を維持することが必要であり、著者の方々の協力が不可欠である。一方、著者にとってのメリットとしては、情報処理学会研究報告用原稿と論文誌用原稿の体裁の差が少なくなったので、論文誌投稿の手間が大幅に削減されることがあげられる。また専用のテンプレートファイル (.dot) を提供しているので、日頃から MS-Word で文書を作成している多くの著者には無理なく受け入れられるものと期待している [c]。

#### 2. 投稿まで

研究報告用原稿の作成から投稿までの流れは、次の通りである。

##### (1) テンプレートファイルの取得

MS-Word による論文作成キットについては、下記の URL から取得して欲しい。なお、インターネットにアクセスできない方は、学会事務局 (sig@ipsj.or.jp) に相談していただきたい。

MS-Word テンプレートファイル

<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/wordtemp.zip>

このキットには下記のファイルが含まれている。

- テンプレートファイル: sig-ms2023.dot
- テンプレートファイルのメッセージダイジェスト値: README.txt
- 作成した研究報告用原稿例: sig-ms2023.pdf

1 (株)日立製作所  
Hitachi Ltd.

2 京都大学  
Kyoto University

3 奈良先端大学院大学  
Nara Institute of Science and Technology

【研究報告用原稿: 上記\*の文字書式「隠し文字」】

a) 情報処理学会では、論文誌を迅速かつ低コストで出版するために LaTeX での投稿を推奨している。

b) Microsoft, Microsoft Word は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

c) えんじ色の色づけは、研究報告用原稿において削除対象箇所であることを示し、【 】に記載された内容は、削除対象に対する推奨操作を示す。

# SSS原稿作成時の注意点

## LaTeXの場合

ipsj\_v4-1 フォルダ内にある,  
tech-jsample.tex からの変更点を示します。

```
8
9 \documentclass[submit,techrep]{ipsj}
10 %\documentclass[submit,techrep,noauthor]{ipsj}
11 % 【SSS推奨】 noauthor を外して、英文著者名を記載する。
12
```

```
28
29 \pagestyle{empty} %% 研究報告はページ番号をつけない
30 \begin{document}
31
```

```
55
56 % 【SSS必須】 和文キーワードは必ず記載すること。
57 \begin{jkeyword}
58 情報処理学会論文誌ジャーナル, \LaTeX, スタイルファイル, べからず集
59 \end{jkeyword}
60 %
```

```
72
73 \maketitle
74 \thispagestyle{empty} %% タイトルページにはページ番号をつけない
75 %1
76 \section{はじめに}
```

# 情報処理学会研究報告の準備方法 (2018年10月29日版)

情報 太郎<sup>1,a)</sup> 処理 花子<sup>1</sup> 学会 次郎<sup>1,†1,b)</sup>

**概要**：本稿は、情報処理学会研究報告に投稿する原稿を執筆する際の注意点等をまとめたものである。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と専用のスタイルファイルを用いた場合の論文フォーマットに関する指針、および論文の内容に関してすべきこと、すべきでないことをまとめたべからずチェックリストからなる。本稿自体も L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と専用のスタイルファイルを用いて執筆されているため、論文執筆の際に参考になれば幸いである。

**キーワード**：情報処理学会論文誌ジャーナル、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X、スタイルファイル、べからず集

## How to Prepare Your Paper for IPSJ SIG Technical Report (version 2018/10/29)

JOHO TARO<sup>1,a)</sup> SHORI HANAKO<sup>1</sup> GAKKAI JIRO<sup>1,†1,b)</sup>

英語Abstract, 英語Keywordsの記載は  
オプションです

### 1. はじめに

情報処理学会では、研究報告の発行を行っている。

本稿では、まずそのスタイルファイルを用いた論文のフォーマットに関して述べる。新たなスタイルファイルでは、極力特別なコマンドは使わずに、標準的な L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のスタイルを踏襲している。論文フォーマットに関しては、3章で後述する指針に従って頂くが、そこに規定されていること以外は標準的な L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のコマンドをそのまま使うことができる。本稿は、そのスタイルファイルを実際に使っているため、論文執筆の際に参考にされたい。

### 2. 投稿の流れ

#### 2.1 準備

情報処理学会論文誌ジャーナルの L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X スタイルファイルを含む論文執筆キットは

<http://www.ipsj.or.jp/jip/submit/style.html>

からダウンロードすることができる。論文執筆キットは以下のファイルを含んでいる。

- (1) ipsj.cls : 最終原稿用スタイルファイル
  - (2) ipsjdraft.sty : 投稿用スタイル (査読用)
  - (3) ipsjpref.sty : 序文用スタイル
  - (4) jsample.tex : 本稿のソースファイル
  - (5) esample.tex : 英文サンプルのソースファイル
  - (6) ipsjsort.bst : jBibTEX スタイル (著者名順)
  - (7) ipsjunsrt.bst : jBibTEX スタイル (出現順)
  - (8) bibsample.bib : 文献リストのサンプル
  - (9) ebibsample.bib : 英文文献リストのサンプル
  - (10) tech-jsample.tex : 研究報告 (和文) のサンプル
  - (11) tech-esample.tex : 研究報告 (英文) のサンプル
- 実行環境としては L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> を前提としているので、準備されたい。

#### 2.2 原稿の作成と投稿

本稿に従って用意した投稿用原稿の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ソースから pdf ファイルを作成し、Adobe の pdf reader で読めることを確認した後、

<sup>1</sup> 情報処理学会  
IPSJ, Chiyoda, Tokyo 101-0062, Japan

<sup>†1</sup> 現在、情報処理大学  
Presently with Johoshori University

<sup>a)</sup> joho.taro@ipsj.or.jp

<sup>b)</sup> gakkai.jiro@ipsj.or.jp

ヘッダーを  
消してないので  
NG

# 情報処理学会研究報告の準備方法 (2018年10月29日版)

情報 太郎<sup>1,a)</sup> 処理 花子<sup>1</sup> 学会 次郎<sup>1,t1,b)</sup>

概要：本稿は、情報処理学会研究報告に投稿する原稿を執筆する際の注意点等をまとめたものである。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と専用のスタイルファイルを用いた場合の論文フォーマットに関する指針、および論文の内容に関してすべきこと、すべきでないことをまとめたべからずチェックリストからなる。本稿自体も L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X と専用のスタイルファイルを用いて執筆されているため、論文執筆の際に参考になれば幸いである。

和文キーワードがないのでNG

## How to Prepare Your Paper for IPSJ SIG Technical Report (version 2018/10/29)

英文著者名がないのでNG

### 1. はじめに

情報処理学会では、研究報告の発行を行っている。

本稿では、まずそのスタイルファイルを用いた論文のフォーマットに関して述べる。新たなスタイルファイルでは、極力特別なコマンドは使わずに、標準的な L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のスタイルを踏襲している。論文フォーマットに関しては、3章で後述する指針に従って頂くが、そこに規定されていること以外は標準的な L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のコマンドをそのまま使うことができる。本稿は、そのスタイルファイルを実際に使っているため、論文執筆の際に参考にされたい。

### 2. 投稿の流れ

#### 2.1 準備

情報処理学会論文誌ジャーナルの L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X スタイルファイルを含む論文執筆キットは

<http://www.ipsj.or.jp/jip/submit/style.html>

からダウンロードすることができる。論文執筆キットは以下のファイルを含んでいる。

- (1) `ipsj.cls` : 最終原稿用スタイルファイル
- (2) `ipsjdraft.sty` : 投稿用スタイル (査読用)

- (3) `ipsjpref.sty` : 序文用スタイル
  - (4) `jsample.tex` : 本稿のソースファイル
  - (5) `esample.tex` : 英文サンプルのソースファイル
  - (6) `ipsjsort.bst` : jBibTEX スタイル (著者名順)
  - (7) `ipsjunsrt.bst` : jBibTEX スタイル (出現順)
  - (8) `bibsample.bib` : 文献リストのサンプル
  - (9) `ebibsample.bib` : 英文文献リストのサンプル
  - (10) `tech-jsample.tex` : 研究報告 (和文) のサンプル
  - (11) `tech-esample.tex` : 研究報告 (英文) のサンプル
- 実行環境としては L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> を前提としているので、準備されたい。

#### 2.2 原稿の作成と投稿

本稿に従って用意した投稿用原稿の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ソースから pdf ファイルを作成し、Adobe の pdf reader で読めることを確認した後、

[https://ipsj1.i-product.biz/ipsjsig/\\*\\*](https://ipsj1.i-product.biz/ipsjsig/**)

(\*\*部分は研究会の略称、DBS 等) の研究会投稿システムにて、指示にし従い投稿する。

### 3. 論文フォーマットの指針

以下、情報処理学会論文誌ジャーナル用スタイルファイルを用いた論文フォーマットの指針について述べるので、これに従って原稿を用意頂きたい。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を用いた一般的な文章作成技術については、[1], [2] 等を参考にされたい。

<sup>1</sup> 情報処理学会  
IP SJ, Chiyoda, Tokyo 101-0062, Japan

<sup>t1</sup> 現在、情報処理大学  
Presently with Johoshori University

<sup>a)</sup> [joho.taro@ipsj.or.jp](mailto:joho.taro@ipsj.or.jp)

<sup>b)</sup> [gakkai.jiro@ipsj.or.jp](mailto:gakkai.jiro@ipsj.or.jp)